

研修No. 97

2022年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2023年 3月 20日
研究・研修課題名	島根大学医学部附属病院におけるがんゲノム医療に関する研修会
研究・研修組織名(所属)	がんゲノム医療センター
研究・研修責任者名(所属)	礒部 威(がんゲノム医療センター)
研究・研修実施者名(所属)	礒部 威(がんゲノム医療センター)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input checked="" type="checkbox"/> その他の成果(研修会開催)
該当者名(所属)	礒部 威(がんゲノム医療センター)
学会名(会期・場所)、認定名等	島根大学医学部附属病院におけるがんゲノム医療に関する研修会
演題名・認証交付元等	『がんゲノム医療の現状と今後の展望』・『がん遺伝子パネル検査におけるメディカルスタッフの役割』
取得日・認定期間等	
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容**目 的**

2019年6月からがん遺伝子パネル検査(NCC オンコパネルおよびFoundationOne CDx:F1)が保険収載され、2020年8月にはFoundationOne liquid CDx:F1L)が追加された。F1およびF1Lはコンパニオン診断機能も有するパネル検査であり、日常診療として用いられるようになっている。しかしながら、がんゲノム医療は専門性を求められる分野であり、実施可能医療機関が定められており、診療科間・医療機関間での診療格差が大きく、均てん化が難しい。また体細胞変異だけでなく生殖細胞変異も検出されるため、遺伝性腫瘍を専門とした臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーとの連携も必要であるが、これらの人材育成もまだ不十分である。島根県内及び山陰地域におけるがんゲノム医療の推進を目指し、島根大学医学部附属病院だけでなく、山陰両県の医療機関を対象としたがんゲノム医療研修が必要である。

① 方 法

現地開催とオンラインを併用したハイブリッド開催にて、がんゲノム医療に関するエキスパートの先生をお招きしてご講演頂く。可能であればワークショップ形式も検討する。

② 成 果

2023年2月10日に慶應義塾大学医学部腫瘍センターゲノム医療ユニット 林 秀幸 先生をお招きし、医師・メディカルスタッフを対象として、ハイブリッド形式での講演会を開催した。林 秀幸 先生の専門であるがんゲノム医療に関する豊富な知識を基に、がんゲノム医療の現状・将来展望について貴重な講演を頂いた。講演会には、県内医療機関からの参加もあり、オンライン参加者も含め36名の参加があった。また、講演会後にはゲノム医療に関する活発な質問が多数あり、講師からは有益な回答を得られた。今後ゲノム医療を進めるうえで大変参考になり有意義な講演会となった。

また、メディカルスタッフ対象のセミナーも開催予定であったが、講師の都合により中止となった。その代替として、各診療科・病棟へ出前説明会の案内を行い、2部署では既に開催(計16名参加)し、その他希望部署での説明会も開催予定である。